

新規・継続等	新規	分野	補完的な道路の整備		事業番号	86	事業名	県単道路改築			
市町村名	木曾町		ふりがな 箇所名	(主)開田三岳福島線 <small>かいたみたけふくしません</small>		とこなみ 床並	事業年度 <small>(完了年度は見込み)</small>	H23年度～		H27年度	
事業概要	計画概要 <small>(延長・幅員・面積・工種など)</small>	道路拡幅工 L=450m W=6.0(8.0)m					H22年度末事業進捗率	0%			
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%			
	H23年度実施内容	用地測量、用地補償 1式					用地補償費ベース	0%			
	事業費計(千円)	全体事業費	H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降残					
	財源内訳	国庫支出金	250,000	0	0	10,000	250,000				
	その他										
	県債	225,000	0	0	9,000	225,000					
	一般財源	25,000	0	0	1,000	25,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価			部 ランク	政策評価課 ランク	部 評点	政策評価課 評点		
	必要性 (30)	計画交通量	4,000台/日以上	1,500台以上～4,000台/日未満	1,500台未満	B	B	0	0		
		代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある				5	5		
		ネットワーク (道路網)	バス路線である	駅やICなどに通じるまたは役場と交通結節点や支所などを結ぶ路線	A及びBに該当しない			5	5		
			ボトルネック箇所	ボトルネック箇所でない				4	4		
		各事業特有の必要性(安全の確保)	観光地に通じる道路	観光地に通じる道路ではない				2	2		
			4.0m未満又は30m未満又は8%以上(幅員、半径、勾配)	4.0m以上5.5m未満(幅員)	5.5m以上(幅員)			6	6		
		他事業との関連	歩道未整備区間に歩道を設置	歩道はあるが不十分であるものを再整備	歩道整備無し			0	0		
			河川改修、新幹線、高速道などの事業に関連して実施					0	0		
	小計					22	22				
	重要性 (10)	設計上の環境配慮	環境配慮がされ現実性が高い	環境配慮がされているが現実性が低い	環境配慮をしていない	A	A	3	3		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(2個以上)	緊急輸送路、振興山村、積雪、過疎、地震防災対策強化に位置づけ(1個以上)	特別な位置づけはない			5	5		
		小計						8	8		
	効率性 (20)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上	B/C 1.0～1.5未満	B/C 1.0未満	A	A	5	5		
		事業効果の早期発現	事業年数 3年以内	事業年数 4年～5年以内	事業年数 6年以上			5	5		
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない			7	7		
		小計						17	17		
	緊急性 (20)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	A	A	10	10		
		各事業特有の緊急性(医療・福祉・教育)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に係らない道路			10	10		
		小計						20	20		
計画熟度 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	B	B	3	3			
	事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない			3	3			
	住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加	住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない			4	4			
	小計						10	10			
費用対効果(B/C)	3.5		評価の合計			A	77	A	77		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は国道19号と御嶽山やスキー場、温泉施設など沿線の観光地を結びと共に、町内の生活道路として利用されており、二次緊急輸送路にも指定されている。しかし幅員狭小で、橋梁の前後が改良区間を除き幅員狭小な区間が連続し、大型車の通行に支障を来しているため、早期完成が求められている。									
	地域からの要望経緯	沿線自治体などにより、主要地方道開田三岳福島線改良促進期成同盟会が組織され、要望されている。									
	事業説明等の経緯	平成5年度の白川工区の事業着手時から事業説明及び工事説明を行っており、事業に対する理解と協力体制が整っている。また、H19に橋梁部について事業説明会実施。									
	環境・景観への配慮項目	他事業で発生した残土を盛土に利用する。切土、盛土とも極力土羽構造とし、緑化を図り周囲の景観との調和をとる。									
	他事業・プロジェクトとの関連	当路線で、地方道路交付金事業(川合)、県単道路改築事業(白川及び冷川)を実施しており、当事業と併せて開田三岳福島線の一体的な整備を進めている。									
特記事項	住民意見を反映しながら事業の進捗を図る。										
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他						
部意見	唯一の生活道路としての安全確保を図るとともに、観光地へのアクセス機能の向上による地域産業の活性化に寄与する事業であり、地元要望も強い。H23年度から事業化をしたい。				政策評価課 意見	緊急性が高く、重要性も認められる。					